

自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策公表について、時期や公表方法を明確に記入する。	学校評価アンケートの結果及び自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策については、3月中にホームページ上に公表し、誰もが閲覧できるようにする。
---	--

※アンケート結果を集計して公表することで、学校評価の結果を公表したとみなすことは適当ではない。

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	<p>①総合学科へ魅力ある学校作りに努めている。校長の経営方針が適切に発信され、教頭等が経営に参画していると感じる。少子化が進み、過疎地域に建つ学校で入試の定員確保も難しい状況の中にあり、生徒確保のために特色を出そうと尽力されている姿勢を称賛したい。</p> <p>②アンケートNo.1の肯定的評価は、生徒が9割弱、保護者も8割を超えている。校長のリーダーシップの下、教頭、事務長等の管理職が連携して日々学校経営を行っている結果である。今後は、全職員が校訓や教育目標、校長の学校経営のビジョンを共有していくことが課題である。また、保護者アンケートNo.17の肯定的評価は8割を下回っているため、学校の方針や様子、匠高の良さを保護者や学校だより、SNS等でさらに周知できるとよいのではないか。</p> <p>③職員会議及び各種会議が情報交換・課題検討の場として、有効に機能しているか、若干懸念がある。</p>	<p>①令和6年度入学生から、進学を重視した総合学科がスタートする。管理職がリーダーシップを発揮して、進路指導部と連携した学級担任をはじめとする本校職員のきめ細やかな指導・支援・激励を行っていく。保護者や中学生による授業参観、保護者の来校機会を増やし、総合学科についてより一層の理解を深めていく。参観後の感想や意見・要望を改善に生かしていく。</p> <p>②教職員は、「面倒見のよい匠高」「誰一人見捨てない」という方針のもと、生徒を叱咤するだけでなく、認め励まし伸ばしていく言動を意識して、生徒に接していく。その積み重ねが生徒間・保護者・中学生・地域へと浸透していくことを目指す。 生徒・保護者のアンケート項目No.1について…生徒・保護者肯定率90%以上。 保護者アンケート…項目No.17について…保護者肯定率80%以上 生徒の活躍や学校をアピールすること、タイムリーな情報提供を行うため、ホームページの更新は積極的に行っていく。</p> <p>③きめ細やかな支援をし、「面倒見のよい匠高」「誰一人見捨てない」「キャリア教育の充実」を図り、進路選択の幅を広げる指導・支援・激励を教職員が一丸となること、組織力を向上していくために、職員間の議論を活発にしていく。 「会議等が有効に機能している」 「日頃、教職員間でよく話し合っている」 …職員肯定率90%以上</p>
学習指導	<p>①授業参観の際、寝ている生徒も殆どおらず、集中しており、主体的に取り組んでいる。仮にお客様が来るからこの日だけは頑張ろうという気持ちの生徒がいたとしても、教職員とのより良い関係が構築されていなければ、そのような気持ちにはならない。指導を浸透させるためにはまずはより良い関係の構築である。それが成されていることを感じ、嬉しい気持ちで参観させて頂いた。</p> <p>②生徒のアンケート結果から、授業のレベルや</p>	<p>①主体的・対話的で深い学び、ICT機器の活用、生徒個々の学習状況の把握と個に応じた指導等、生徒指導の機能を生かした授業づくり（自己肯定感、自己決定、共感的人間関係等）を学習指導の柱として、授業実践を行う。経験の浅い教員には、授業で生徒と信頼関係を築くよう指導・助言・激励をしていく。 長期にわたる欠席者への学習保障については、準備を怠らず、学びの保障を止めない。</p>

	<p>進度、授業の工夫等への肯定的評価が全て8割を超えている。今後生徒から出た具体的な意見を踏まえ、改善できるところは改善していくとともに、2割弱の否定的評価の元となると考えられる教員の授業力の向上のための研修等が求められている。</p> <p>③全県の課題であるICTについては、匝高もICT機器の活用が十分に行われていないことから、ハード面、ソフト面とも課題であることがわかった。</p> <p>特に1年生のタブレット活用に関しては、より一層の改善が必要である。</p>	<p>②教員同士の授業参観（年3回以上）、他校種への授業参観等を行い、授業の改善・工夫・向上に努める。</p> <p>職員は、学習指導に関する肯定率が下がっていることから、「ICT機器の活用」「模擬試験後の結果の考察と授業改善」「新学習指導要領を踏まえた授業実践」等、課題解決に向けた研修をより一層充実させていく。</p> <p>学習に関するアンケート項目…職員の肯定率前年比以上</p> <p>③ICT機器活用（とくにタブレット）に関する研修の実施（毎月）。先進校への視察（年3回以上）</p> <p>「ICT機器等を用いた授業の工夫」 …生徒肯定率80%以上</p>
生徒指導	<p>①生徒指導方針をホームページにアップし、周知している。化粧や装飾品、奇抜な髪型や染色もおらず安堵した。</p> <p>重点目標である規範意識の向上と思いやりの心をもった生徒の育成とある。正に立派な社会人になるための基本であると思うが、これらは今の家庭教育では難しいところもあり、学校でなければ適切な指導ができないと思った。</p> <p>②部活動の様子を見ると、子どもたちが主体的に活動していた。</p> <p>③これまで何度か学校参観をして感じていることは、匝高生徒は「挨拶がきちんとでき、授業や学校行事（蔦陵祭）に真剣に取り組んでいる生徒が多い」ということである。これは生徒アンケートNo.13の肯定的評価が9割を超えていることにも関連があると思う。一方で職員アンケートNo.13が7割を下回っているのは課題として捉えると共に、全ての職員が「積極的生徒指導」の意味を明確に意識し実践できるように、地道に研修等を行って行くことが大切だと考える。</p>	<p>①生徒指導規程を作成した背景や規程の点検、見直しについてもホームページに記載してあるので、多くの方々に見ていただけると、より匝高高校への理解が深まっていくのではないかと考える。併せてホームページには、「学校いじめ防止基本方針」も掲載している。さらにいじめの未然防止に向けて、生徒の居場所づくり、教育相談体制の充実、ホームページによる情報発信、被害目撃調査の実施等を職員一体となって取り組む。</p> <p>②部活動指導については、引き続き生徒の自主的・主体的な取組をとoshi、技術だけでなく人間的な成長を促していく。</p> <p>③生徒アンケートNo.13については、コロナ禍を機会に授業の指導方法や行事の見直し（内容・質の向上）を図ったことで、生徒が充実感・達成感・満足感を感じたことによる。今後も、授業改善や行事の見直しに力を入れていく。</p> <p>①でも記載したが、いじめを始めとする生徒指導を未然に防ぐために、教師による生徒の居場所づくりを基本に、学級経営や授業、部活動、委員会活動等に力を入れていく。特に「生徒が自己存在感を得ること」「共感的な人間関係の構築」「教師が自己決定の場の提供をすること」を柱にして、主体的・協働的な活動を通して、生徒たちが「絆」を感じるための場や機会を提供していくことを欠かさない。</p>
キ	<p>①進路指導部の計画、準備、外部との連携をさらに推進してほしい。職業に対する憧れや目標をもたせるために、先輩たちの話を聞かせたり、文章を紹介したりすることで、さらに目標を強固になるのではないかと。自分の将来</p>	<p>①教員志望の生徒が多いので、「せんせいっていいもんだ」出前講座を次年度も引き続き実施する。ここ数年、本校卒業の教員に講師を招いており、生徒の満足度も高いためである。</p>

<p>キャリア教育</p>	<p>を自分で切り開いていく勇気ややる気を身に付けさせていただきたい。</p> <p>②キャリア発達は、他者との関わりを通して自己の役割を果たし、自己を見つめ直していく過程の中で促されていくものだと思う。今後さらに体験的な学習の機会を多く設けていくとよい。特別支援学校へのキャリア体験学習も活用してほしい。</p> <p>③進路についてのより多くの情報提供や、より一層細かく具体的なキャリア指導をお願いしたい。</p>	<p>「大学模擬授業」「キャリアガイダンスセミナー」についても継続して実施をしていく。</p> <p>②進路指導部を中心に「仕事知ろう～〇〇編」のより一層の充実を図る。活動をとおして、将来を見据え主体的に進路を選択・決定する能力・態度を育成する。</p> <p>③本校のキャリア教育を保護者に理解してもらうために参観や公開をHP等で告知する。さらに講演会や生徒の体験の様子など、HPで公開をしていく。</p> <p>進学指導重点校として、進路指導部を中心とした分析会議を継続して行い、進路指導・支援に役立てていく。</p> <p>進路指導部を中心に、生徒アンケートでマイナスになった項目について、原因や改善点を協議する。</p> <p>進路指導満足度…生徒肯定率90%以上</p>
<p>特別活動</p>	<p>①文化祭等の生徒たちの楽しそうな様子から、充実した指導及び成果が上がっているのではと感じる。</p> <p>②部活動などを通じて特技や得意分野をもっていると、仕事以外で人間の幅が広がるので、社会に出たときに、絶対にプラスになると思う。ただし、生徒数が減少したせいか、部員数が少なく感じる。</p> <p>さらに部活動については働き方改革の観点から、縮小や外部委託の方向が望ましいとも考える。ただし、部活動で救われる生徒もいるので、悩ましいところである。部活動の運営方針は今後も勝利至上主義にならぬようにと願う。</p> <p>③学習環境の整備という意味で、施設・設備の老朽化に伴う修繕が必要な部分の計画的な取り組みが必要である。</p>	<p>①新型コロナによる活動の制限が解除された中で、生徒の満足感・達成感・成就感が高く効果的・効率的な活動を行うことができるように、生徒の考えや意見を可能な限り反映しながら、教職員は内容を検討していく。</p> <p>「学校行事やHR活動に満足している」 …生徒肯定率90%以上</p> <p>②部活動だけでなく、さまざまな活動をとおして、生徒たちの人間性を高めていくことは、全職員の共通のこととして再度確認をする。部活動・同好会の加入率は、令和4年度が、92.5%であるのに対し、令和5年度は、86.5%と大きく減少した。生徒の自主的・主体的な取組をとおし、技術だけでなく人間的な成長を促していく場として、部活動の加入をより一層奨励していく。また、勝利至上主義にならないよう「部活動に係る活動方針（HP参照）」を全職員に確認させ遵守していく。</p> <p>③施設・設備の修繕は、県教委と協議をすすめ計画的にすすめている。ただし、「校舎は古いが、清掃は行き届いている」と来校者に言われるように、管理厚生部を中心に清掃活動に重点を置いていく。</p>
<p>特別支援</p>	<p>①個別の指導計画の作成状況はどうなっているか。授業参観の印象では、個に応じた配慮や支援が成されているのではと感じた。</p> <p>特別な支援を必要とする生徒に適切に対応していくには、愛情をもって見守り続けることだと思うが、多忙な教員には負担が大きいと思う。気がついた時点で家庭に連絡をとり、情報を共有しておくことが大切かと思う。</p>	<p>①年間をとおして、合理的配慮申請を受け付けており、必要な生徒に対して個別の指導計画や個別の教育支援計画を作成している。さらに教育相談推進委員会と特別支援教育推進委員会を定期的に実施し、支援や配慮が必要な生徒の対応を検討している。より生徒が安心して学校生活を送ることができるように必要に応じて生徒・保護者と面談を実施し、支援の内</p>

<p>教 育</p>	<p>②対職員…匝高にもASDやADHD、SLD等の発達障害のある生徒、あるいはグレーゾーンの生徒が少なからず在籍していると考えられる。これらの生徒への適切な支援を行うことにより、学校評価の全体的な肯定的評価も上がると考える。今後も様々な専門家を招いての研修等を行うとよい。</p> <p>対生徒…自己の障害を正しく知ることは、学習や生活上の困難さを克服していく第一歩になる。SSWやSC、特別支援教育相談員等の専門家による相談週間を定期的に設ける等相談の機会を多く設けられるとよいのではないかな。</p> <p>③現在の取り組みに加え、更に外部機関との連携を図り、適切な指導・支援を期待する。</p>	<p>容を確認している。</p> <p>校内に特別支援教育コーディネーターを複数配置していることから、年間を通して複数回の研修を受講するとともに、研修結果を全職員に知する。若手教員に対しては、異校種研修で特別支援学校に研修に行くことを管理職が推奨している。</p> <p>②年度初めにスクールカウンセラーを講師に困り感のある生徒への対応について、研修を依頼する。ヤングケアラー、虐待等の研鑽を積み、職員がアンテナを高くし、気がついたら気軽に管理職・同僚・SC・SSWに相談ができる組織の構築に努める。</p> <p>学級担任は副担任と協力しながら、年複数回生徒と面談を実施する。面談の中で生徒自身から困り感を聞き出すとともに、生徒がどうしていきたいか、教員・生徒間で念入りに話し合いをすすめるよう指示を出す。</p> <p>③この4年間、複数回にわたり、匝瑳市教育委員会主催による学校訪問・北総教育事務所から特別支援教育アドバイザーの派遣を依頼している。さらに市町の子育て支援課や地域包括支援センターと協力しながら、気になる生徒の情報共有や支援をすすめている。今後も継続して、連携を図っていく。</p> <p>月1回「めぐりカフェ（居場所カフェ）」を開催している。年度初めに開催の意義を説明し、全職員から理解を得る。</p>
<p>特 色 あ る 教 育 活 動</p>	<p>①コロナが落ち着き、短期留学復活と特色ある教育活動を展開している。匝瑳高校が大きく変わる時期であり、生徒や地域の実態に応じた教育課程を推進してもらいたい。</p> <p>②全日制生徒、定時制生徒ともに、自己肯定感の向上が自信、やる気につながり、主体的に考え行動する姿に結びつくものと考える。これは、家庭や友人、教師に加え、地域の方など、第三者とのかかわりの中で、ともに考え活動し、共感し合い、認められ、励まされ、心からの「ありがとう」という言葉をかけられる中での「感動」によって育まれていくものである。主体的に行動できる力は、学力や学び続ける力、生活していく力、全ての源になる力である。したがって、地域と連携した活動は、さらに発展させていけるとよいのではないかな。幸い匝高生は多くの生徒が素直さや他人を思いやる気持ち等の下地があると思えますので、十分可能だと考える。</p>	<p>①現在、3月中旬に行われるアメリカへの短期留学（生徒12名参加）に向けて、最後の調整段階にきている。「語学力や問題解決力の向上」「勉強の面白さに目覚めること」「人脈や絆づくり」「現地の文化や習慣を学ぶこと」等、生徒の将来に大きな影響を与える機会を大事にし、生徒の心を揺さぶる特色ある教育活動を行う。</p> <p>②総合学科開設に伴い、令和6年度入学生から、「産業社会と人間」という科目を実施する。そこで、匝瑳市商工観光課や地域に協力を依頼し「ソーラーシェアリング」「まちづくり」等の体験学習をさせる。さまざまな活動や学びをとおして、「社会生活や就職に必要な基本的な能力や態度の育成」「社会の変化への対応」「自己の将来の生き方や進路についての考察及び教科科目の履修計画の作成」とおして、「自己肯定感」「やる気」「主体性」を育てていく。</p>